

1 全体計画

学校の教育目標 知・徳・体のバランスのとれた教育活動を推進する。
 ○元気な子 ○考える子 ○仲良くする子

平成29年度学校経営方針

- ◎知・徳・体の調和の取れた人間性豊かな児童の育成を目指す。
- 元気な子 心身ともに健康で、課題や困難に立ち向かい、強い意志をもって最後までやり遂げる子
- 考える子 自ら課題をもち、自ら学び続け、正しく判断できる子
- 仲良くする子 心豊かで思いやりをもち、互いに協力し合い、自他を尊重できる子
- ◎「上高田の大地とともに」、「学校は、地域とともに、子どものためにある」を学校経営の理念として掲げる。

本校の捉える「確かな学力」

- 各教科における基礎的・基本的な知識と技能
 - 自ら学び、問題解決しようとする力
 - 既習事項を応用するための、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力
- 教育の重点
- ①「分かる授業づくり」に向けた日々の授業の充実 ②校内研究等による個に応じた指導・支援の充実
 - ③コミュニケーション能力の育成のために言語活動の充実 ④学習規律の確立
 - ⑤体力向上プログラムに基づく体育的活動の推進と食育・保健指導を通じた健康づくり

平成29年度の指導の重点

<各教科>

- ・基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、思考力・判断力・表現力等を育成する。
- ・体験学習や課題解決学習により、自ら学ぶ意欲を向上させ、創意工夫し、課題を解決する力を育てる。
- ・特別に支援を要する児童において、個別指導計画に基づき、個に応じた適切な学習指導を行う。

<総合的な学習の時間>

- ・「みつばちタイム」とし、国際理解・情報教育・環境教育・福祉・地域の5つの柱を基に、自主的・主体的に活動をする態度・自ら課題を見出し解決する能力・表現力やコミュニケーション能力・郷土への愛着心・社会の変化に対応する力を育成する。

<道徳>

- ・全教育活動を通して、生命尊重を基盤とし、規範意識の高い、心豊かな児童の育成を図る。
- ・道徳教育の全体計画に基づき、全教育活動の中で道徳的实践力を育み、思いやりの心、公德心、正義感、ボランティア精神等を養い、主体的な生き方考える態度を育てるとともに、豊かな人間関係を育む。

<生活指導>

- ・思いやりの心や社会生活のルール・マナーを身に付けさせ、学習・生活における規範意識を育成する。
- ・「進んであいさつをする」「言葉遣い」「思いやり」を指導の重点とし、自他の生命を大切にしようとする態度を育成する心の教育を行う。

<特別活動>

- ・集団活動の基礎基本を身に付け、主体的に活動し、社会に参画しようとする意識と実践的態度を育てるとともに、一人ひとりの良さや可能性を伸ばす。
- ・集会活動の充実を図り、主体的な活動を通して、集団の一員としての自覚を高め、企画・実践力を培う。

<進路指導>

- ・社会の変化に主体的に対応するために、生涯を通じて学ぶ態度や能力の育成を図る。
- ・商店街の職業体験等を通して、生きがいや喜びを身近に感じさせることで、キャリア教育の推進を図る。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・漢字や言葉のスキル学習を増やすとともに、東京ベーシックドリルを活用し基礎基本の向上を図る。
- ・算数の習熟度別少人数指導を実施する。習熟度学習を活用することにより、「分かる授業」の確立を目指す。
- ・全学年外国語活動の時間を設定し、英語に親しむ活動を通してコミュニケーション能力を高める。

教育課程編成上の工夫

- ・余剰時数を活用し、各教科で定着が不足している内容の反復、補充、基礎的な学力の定着を図る。
- ・補充学習や朝活動の時間を活用し、言語感覚を養ったり、計算力の向上を図ったりする。

評価の工夫

- ・評価規準、評価計画に基づき、自己・相互評価、教師による評価を行い、個々の児童への助言や個に応じた支援を適切に行う。
- ・児童、保護者による評価、土曜公開や行事等でアンケートを実施し、授業改善に生かす。

校内研究・研修の工夫

- ・校内研究の研究主題を「通常の学級における特別支援教育」とし、児童自身が個に応じて課題意識をもって学習に取り組みながら、既習事項の定着を図る指導を充実させる。
- ・全教員が研究・研修・OJTにかかわることを通して、指導技術の向上を図る。

家庭・地域との連携の工夫

- ・保護者会、個人面談を通して情報共有をし、児童の健全育成を図る。
- ・家庭の一員としての仕事の分担をし、自立と共生を家庭で身につける。
- ・地域の施設や人材の有効活用を図る。